地学教員の多い県での実践

安藤　祐美（埼玉県立川越女子高等学校　全日制・普通科）

要約：埼玉県は日本地学発祥の地としても名高く、地学の教育が比較的盛んな県である。埼玉県理化研究委員会の地学研究委員会（以下、埼玉地学）は、現在 24 名で構成されており、研究大会や委員会に置いての授業実践の報告、実験実習講習会など、様々な取り組みがなされている。この発表においては、私が 2016 年に採用以来、現在までに取り組んできたこと、これから取り組まなければならないと考えていることについて報告する。

１．はじめに

昨年度は関東理化研究大会、本年度の全国理化研究大会に、埼玉地学代表として参加させていただいた。どちらにおいても質問が多く寄せられ、埼玉地学の注目の高さがうかがえた。関東理化研究大会での発表内容は「触れる地球」を用いた授業実践の報告である。

２．2018 年夏　一泊見学会実行委員

埼玉理化研究会より依頼され、埼玉地学は一泊見学会（野外巡検研修会）を各年で実施している。地学教員のみでなく、地学を専門としない教員、実習助手も対象としている。2018 年度の会は、若手教員より寄せられた、「授業で紹介ができるサンプルが欲しい」という意見より、「地学に詳しくない教員が地学部の巡検で生徒引率をするときにこの巡検を再現すればよい」というコンセプトのもとで計画を行った。巡検において、難しい用語ばかりで話についていけないという意見もあるので、しおりの後半に用語集を作ることになった。私は主に用語集作りを担当した。また、2018 年冬に行われた地学研究大会での実施報告のポスターを制作し、発表した。

３．2018 年夏　実験実習講習会

埼玉地学では、実験実習講習会を毎年開催している。昨年度においては、近年注目されているアクティブラーニングを中心に行った。埼玉県教育委員会では、東京大学 CoREF と連携し、ジグソー法を用いたアクティブラーニングを推進している。埼玉地学では、「アクティブラーニング資料集」と題し、各教員が作成したジグソー法の教材と、各単元においてアクティブラーニングを行いやすい内容のリストを合わせた資料集の作成を計画している。私は教材提供およびイラストと紹介ページの体裁を担当している。

３．おわりに

埼玉県の地学採用は近年少なくなっている。埼玉地学の重鎮と言われる方々も近年定年退職を迎えそうである。埼玉地学の存続が危ない。また、近年大学における地学の研究は実験系が多くなり、フィールドワークによって研究を進めている研究室は減っているように感じている。しかし地学の教育においてはフィールドが大事であり、実際の露頭などで実物をみて学習する機会が必須であると考える。私のような経験の少ない者が埼玉地学を運営していくのは大変不安である。重鎮からの巡検や観察についての知識の伝搬が急がれる。また、今年より埼玉県の高校の採用試験の二次試験で、専門教科の筆記試験がなくなった。これから埼玉県で地学採用が増え、埼玉地学に若手が多く入ってくれることを望む。

安藤　祐美（埼玉県立川越女子高等学校 全日制・普通科）：
ando.yumi.56 at spec.ed.jp